

JAMA NEWS NO. 40

The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学大学院会計研究科 日本管理会計学会事務局

2015年度年次全国大会開催記

2015年度全国大会実行委員会 委員長 近畿大学 安酸建二

統一論題「コスト・ビヘイビアと原価計算」

■■ 日本管理会計学会 2015 年度全国大会は、平成 27 年 8 月 28 日（金）から 30（日）の 3 日間、近畿大学東大阪キャンパスにおいて開催された。28 日には、学会賞審査委員会、常務理事会、理事会、理事懇親会が開催された。29 日は、午前 9 時 30 分から 4 会場に分かれ、計 16 の自由論題報告が行われた。午後には、会員総会、特別講演に続き、統一論題報告と討論が行われた。統一論題報告終了後、午後 6 時すぎより、ブロッサムカフェにて会員懇親会が開催された。翌 30 日は、午前 9 時 30 分から 5 会場に分かれ、計 16 の自由論題報告が行われ、これと並行して、スタディ・グループと産学共同研究グループによる報告が行われた。

■■ 統一論題・討論「コスト・ビヘイビアと原価計算」

片岡洋人氏（明治大学）を座長とする統一論題報告が行われた。テーマは、「コスト・ビヘイビアと原価計算」であった。片岡洋人座長による開題の後、次の 3 つの報告が行われた。

■ 統一論題報告(1)：椎葉 淳氏（大阪大学大学院）
「コスト構造と企業リスク：近年の理論・実証研究からの示唆」

本報告では、企業リスクとの関係からコスト構造に関する近年の研究を概観するとともに、今後の研究の方向性について議論された。椎葉氏は、(1) 経営者のインセンティブを考慮したコスト構造のモデルへの拡張、(2) 生産関数としての企業理論とエージェンシー

理論の融合、という二つの必要性を指摘された。

■ 統一論題報告(2)：梶原武久氏（神戸大学大学院）
「コストマネジメント行動とコスト・ビヘイビアの裏側に迫る」

本報告では、近年におけるコスト・ビヘイビア研究の展開を概観した上で、今後の研究の方向性として、

(1) 財務会計研究と管理会計研究の接合、(2) コスト・ビヘイビア研究とコストマネジメント研究の接合、という二つの方向性が提示された。梶原氏はそのうち(2)に注目し、その試みの一つとして、日本ロジスティックシステム協会による物流コスト調査のデータを用いた分析結果を示した。

■ 統一論題報告(3)：新井康平氏（群馬大学）
「管理会計研究における階層線形モデル（HLM）の有用性の探求：文献レビューによる検討」

本報告では、管理会計研究・実務における階層線形モデル（HLM）の有用性を探求することを目的として、HLM を企業単位ではなく、よりミクロな単位の財務数値に適用する上での可能性と注意点が議論された。これらを踏まえて、HLM の管理会計・原価計算研究および実務への含意が議論された。

■ 統一論題討論

統一論題報告の後、続けて統一論題討論が行われた。各報告者による要約の報告および補足事項に続き、片岡洋人座長から問題提起がなされた。その後、参加者との活発な質疑応答が行われた。

2016年度年次全国大会 明治大学に決まる！

2016年度年次全国大会が次のとおり決定いたしましたので、お知らせいたします。なお、詳細については追ってご報告します。

- 日程：8月31日(水)～9月2日(金)
- 場所：明治大学駿河台キャンパス・リパティタワー（東京都千代田区神田駿河台1-1）
- 大会準備委員長：森 久氏

2016年度年次全国大会開催 ご挨拶

大会準備委員長
明治大学 森 久

日本管理会計学会 2016 年度年次全国大会の開催をお引き受けするにあたりまして、大会準備委員長としてご挨拶申し上げます。

会員にとりまして最大の関心事は、統一論題かと思われます。幸いに早稲田大学の辻正雄先生に座長をご快諾いただきましたので、先生方のご期待にお応えできると存じます。

また、特別講演を企画いたしました。管理会計の研究と実践の両面から、過去を振り返り、現在までの蓄積と今日の課題を確認し、将来について展望するという内容にしたいと考えております。研究については元神戸大学

の小林哲夫先生、実践については日立製作所の管理会計責任者にご講演いただく予定でございます。

近畿大学での会員懇親会における鮪の解体ショーは圧巻でした。とてもそのレベルのものではありませんが、懇親会では先生方に楽しんでいただけるものを企画したいと考えております。

出身者を含めると、明治大学関係の管理会計研究者は約 30 名にも達します。その全員が「日本管理会計学会の発展のために」という旗の下に結集し、来年の年次全国大会を準備いたします。われわれ明治大学関係者のそうした思いもお伝えしたいと思っております。

学会賞決定！

特別賞、功績賞の審査委員会の審議の結果を受けて、功績賞 2 名が決定しました。2015 年度会員総会の中で受賞式が行なわれ、原田昇会長より賞状および副賞が授与されました。おめでとうございます。

《特別賞》

該当者なし

《功績賞》

上總康行氏（京都大学名誉教授）

小林啓孝氏（早稲田大学）

論文賞、文献賞および奨励賞の審査委員会の審議の結果を受けて、本年度の論文賞、文献賞および奨励賞が次の 3 氏に決まりました。2015 年度会員総会の中で受賞式が行なわれ、原田昇会長より賞状と副賞が授与されました。おめでとうございます。

《論文賞》

木村史彦氏（東北大学）

「事業内容と利益マネジメント-利益マネジメントの業種間比較を通じて-」

『管理会計学』2015年、第23巻第1号。

≪文献賞≫

伊藤和憲氏（専修大学）

『BSCによる戦略の策定と実行:事例で見るインタンジブルズのマネジメントと統合報告への管理会計の貢献』同文館出版, 2014年刊。

≪奨励賞≫

堀井悟志氏（立命館大学）

「予算管理とイノベーションの創出」『管理会計学』2015年, 第23巻第1号。

スタディ・グループの成果報告

千葉大学 内山哲彦

JAMA2013年度スタディ・グループ

「企業価値創造に向けてのインタンジブルズの複合的活用」研究概要

研究代表者：内山哲彦（千葉大学）

委員：青木章通（専修大学），岩田弘尚（専修大学），木村麻子（関西大学），小酒井正和（玉川大学），細海昌一郎（首都大学東京）

本スタディ・グループでは、人的資産、組織資産、情報資産、顧客資産、ブランド、コーポレート・レピュテーションの6つのインタンジブルズを取り上げて、インタンジブルズ・マネジメントの意義を再検討し、インタンジブルズの活用の側面に焦点をあてて、複数のインタンジブルズの統合的なマネジメントを視野に入れた枠組みの構築を目指した。

第1年度は、各種インタンジブルズについての先行研究のレビューから、理論研究を中心に、インタンジブルズ・マネジメントの意義を検討し、暫定的なインタンジブルズ関係図（モデル仮説）を提示した。第2年度は、

インタンジブルズの複合的活用にかかわる先行研究をさらに重点的にレビューし、個別の要素を組み合わせた、複数のインタンジブルズによる企業業績・企業価値への複合的な貢献や、そのための統合的なマネジメントを視野に入れて研究を行い、最終的なモデル仮説を設定した。その上で、質問票調査とインタビュー調査を実施し、企業実態からモデル仮説の妥当性について検討した。その結果、6つのインタンジブルズ間の関係と、それらの企業業績への影響を実証的に明らかにすることができた。

本研究の貢献として、以下の5つをあげることができる。第1に、これまで個別に研究されてきた各種インタンジブルズを1つの研究として扱い、分析したこと。第2に、6つのインタンジブルズの複合的活用に向けた関係を実証的に明らかにしたこと。第3に、定量的・定性的実証研究を通じて、インタンジブルズを複合的に管理することに意義があることを示したこと。第4に、企業業績（企業価値）を含めた、複合的活用のモデルを提示したこと。そして第5に、従来の知的資産経営に対する貢献の可能性を見出すことができたこと。

産学共同研究グループの成果報告

甲南大学 長坂悦敬

JAMA2013～2014年度産学共同研究グループ最終報告

「次世代マネジメント・コントロールのためのメゾスコピック・モデルに関するアクション研究」

長坂悦敬（甲南大学），李健泳（新潟大学），今井範行（名城大学），徳崎進（関西学院大学），篠田朝也（北

海道大学），丸田起大（九州大学），柊紫乃（山形大学）（企業メンバー協力者）：中村昌弘（(株)レクサー・リサーチ），松本浩之（(株)956），北川満（ノースリバーポイント(株)），河本潤（河本・海津税理士法人），玉澤昇・大竹浩（玉澤精機(株)）

実務に適用可能でとくに日本企業の発展に帰するマネジメント・コントロールのメゾスコピック・モデル (mesoscopic model, 中間モデル) を構築することを目指して、マネジメント・コントロールに関する各種理論、フレームワーク、手法を整理し、(1) 現在企業サイドでニーズのあるプレコンペティティブな階層でのメゾスコピック・モデル (中間モデル, 以下の①~③) を構築、(2) 大学/企業メンバー共同でそのメゾスコピック・モデルを IT ソリューションに実装し、(3) 実務への試行導入 (アクション研究) も実施した。

① フィードフォワード・コントロールに適合するグランド・コストモデル

フィードフォワード・コントロールに適した KPI を探究するとともに、管理会計によるフィードフォワード・コントロールのアクション研究を 3 社で実施し、中間モデルの生成を行った。

② ED-BPM (イベントドリブン・ビジネス・プロセス・マネジメント) モデル

中小企業向け BPM のフレームワークを探究しつつ、プロセス・ロス分析、プロセス通過時間を活用する分析方法、費用 (利益) 速度、タイミングを考慮する中間モデルを生成した。さらに、ED-BPM 理論をソフトウェア実装したクラウド・サービスを開発し、7 社でアクション研究を行った。

③ MFTC (マテリアルフロータイムコスト) モデル

トヨタ生産システムの進化の可能性を探るという意味での環境と会計の視点から、「リードタイム」「納期遵守率」「在庫 (滞留)」という 3 つの主要指標の究極的な改善を目指すための MFTC モデルを提案した。このモデルを工場内工程・搬送シミュレータに実装し、MFTC を予測できるようにした。それを 2 社において試行導入し、効果を確認した。

片岡洋一先生を偲んで

国土舘大学 井岡大度

本学会の初代会長片岡洋一先生が、去る 7 月 28 日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を捧げます。先生は 1938 年 12 月 8 日のお生まれで、立教大学経済学部を卒業後、同大学院に進学され、博士課程を 1966 年に修了されました。また、同大学から経済学博士の学位を取得されております。なお、その成果は先生の著書『製品原価の測定理論』(白桃書房) に収められております。大学院修了後は、東京理科大学に専任講師として迎えられ、助教授、教授を経て、2004 年に定年退職されました。この間の多大な功績に対して同大学より名誉教授の称号が授与されております。東京理科大学退職後も目白大学において精力的に研究・教育を行われました。私、不肖の弟子ではありますが、多くのご指導を受け賜った者の一人として先生の研究・教育のご貢献について日本管理会計学会に関わる部分を中心に紹介し、先生を偲びたいと存じます。

先生が多数の論文・著書を執筆されたのは周知のとおりですが、先生の研究分野は原価計算・管理会計のみならず、財務会計や会計理論にまで多岐に亘っており、いずれの分野においても大きな功績を残されております。先生はご自身の研究を通じてのみではなく、より広く我が国の会計学の発展に貢献したいとの考えを強くお持ちでした。そのため、1980 年代中頃に数理会計研究会を立ち上げ、幅広い人たちに研究報告の場を提供しました。

その後の組織拡大に伴い、1989 年に数理会計学会と名称変更してからは、会長としてその発展に尽くされました。さらに、日本学術会議法の定めに従った公式の学会とするため、1991 年 7 月、「日本管理会計学会」を創立し、初代会長に就かれました。このとき、将来を見据えて、会計学の分野ではまだ一般的ではなかった査読付き学会誌の刊行を切に願っておられましたが、会費収入が 100 万円にも満たず財政的余裕はない状況では非常に困難でした。しかし、奔走の末、東京理科大学橋高重義理事長 (当時) から学会誌刊行費として補助金を収受するに至り、1992 年から伏見多美雄委員長のもと二重匿名査読性にもとづく『管理会計学』が発刊されることになりました。

1996 年 7 月には、先生の念願がかない、日本学術会議「登録学術研究団体」(現在:「協力学術研究団体」) に登録されましたが、登録にあったっては、全国大会の定期的実施の他、特に二重匿名査読性の学会誌を刊行しているという実績が、その審査において有利なポイントとなりました。また、1999 年からは初代理事長として財政的基盤のさらなる充実に奔走されることとなります。さらに 2000 年には、6 年間の歳月を費やした『管理会計学辞典』が刊行され、管理会計学の発展に寄与されました。以上、示しましたのは一端にすぎませんが、先生は、日本管理会計学会において会長として指導的役割を果たさ

れ、また、財政的基盤の充実のために多大の努力をなされ、学会の発展に大きな足跡を残されました。2007年には、これまでの功績により日本管理会計学会から学会賞の「特別賞」が授与されております。

先生は学会への貢献のみならず、所属した大学においてもめざましい功績を残しておられます。東京理科大学は総合性を備えた university とすべく 1993 年に経営学部を設置しましたが、その際、教員人事、文部省への設置申請、校地の確保、および校舎の設計等、5 年以上の期間をかけて設置業務を統括推進されました。また目白大学における経営学部の設置にも多大な貢献をされています。教育面では、東京理科大学工学部・経営学部および

目白大学経営学部において精力的に教育を行い、多くの人材を育成されました。その中には第一線で活躍している研究者も多数います。さらに、両大学在職中、経営学部長および大学院経営学研究科長といった要職を務められました。

強い情熱と意思をもって大学における研究・教育および行政に、また学会のために労力を惜しむことなく同時並行的に精力的に尽力され、多くの功績を残されたことに深い敬意を表すとともに、これまでの薫陶に心より謝意を申し上げ、ここに謹んで片岡洋一先生のご冥福をお祈り申し上げます。また、長い間、先生を支えて参られた御奥様の末永いご健康を祈念いたします。

2015年度第3回管理会計フォーラムのお知らせ

2015 年度第 3 回フォーラムは、下記の要領で同志社大学において開催されます。今回は、若手研究者の方々に発表いただきたいと考えています。是非、ご参加下さるようお願い致します。

■日時・会場

日時：2015 年 12 月 5 日（土）13:00～17:00

会場：同志社大学今出川キャンパス（〒602-8580 京都市上京区今出川通鳥丸東入）
至誠館 2 番教室（S2）

■交通アクセス・キャンパスマップ

アクセス：地下鉄烏丸線「今出川」駅下車すぐ

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>

キャンパスマップ

http://www.doshisha.ac.jp/attach/page/OFFICIAL-PAGE-JA-42/55135/file/campusmap_imadegawa.pdf

■参加費：1,000 円（会場受付で当日払い）

■フォーラム・スケジュール（敬称略）13:30～16:45

第 1 報告：遠谷貴裕（明星大学）「ストックオプションの付与と経営者の機会主義的行動」

第 2 報告：張宏武（関西大学商学研究科博士後期課程 2 年）「中国における中小企業管理会計の現状と課題-大連での調査を中心にして-」

第 3 報告：尻無濱芳崇（山形大学人文学部）・森光高大（日本経済大学経営学部）「防衛調達に関する契約時概算原価と実際原価の差異に関する考察：利益調整研究手法の応用」

第 4 報告：大西智之（早稲田大学大学院博士後期課程 1 年）・町田遼太（早稲田大学大学院博士後期課程 2 年）「アメリカ経営が有する PDCA サイクルの分析」

第 5 報告：北田智久（神戸大学大学院博士後期課程 2 年）「業績評価と業績指標の操作：主観的業績評価の役割」

■懇親会

場所：京都ガーデンパレス

時間：17:30～19:00

会費：3,000 円（予定）

※参加の申込は e-mail にて中川優（mnakagaw"あつと"mail.doshisha.ac.jp）宛に 11 月 22 日(日)までをお願いします。

なお、メールに、1. ご氏名、2. ご所属、3. 電話番号および 4. 懇親会の出欠、をお知らせ下さるようお願い致します。

2016年度第1回国際学会参加費の助成について（公募）

会員の国際的活動を支援する一環として、標記の件について、下記の要領で公募いたします。

■ 助成対象

管理会計に関連する海外の学会（2016年5月1日から2016年8月31日の間に開催される学会）において、研究発表をする場合または当該学会と本学会との交流を促進するため活動を行う場合。

■ 助成額

航空運賃（往復）が5万円未満の場合には全額を、航空運賃（往復）が5万円を超過する場合には、5万円にその超過額の1/2を加算した額を助成する。ただし1件あたり10万円を限度とし、予算総額は年間20万円とする。

■ 応募方法

別紙書式に学会開催要項等を添付し、学会事務局に送付すること。

書式（Ms-Word2003：文書名「2016rsdEntrySheet」）は、学会公式ホームページよりダウンロードしてください。

<学会事務局>

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

早稲田大学大学院会計研究科 清水孝研究室内

日本管理会計学会事務局 宛

e-mail : jama-info@sitejama.org

■ 応募締切

2016年3月31日《期日厳守》

■ 選考方法

選考委員会で選考し、常務理事会（2016年4月開催予定）で決定する。

なお、2016年度の2回目の公募は、2016年9月1日から2017年3月31日に開催される学会に対して、募集時期：2016年5月末、応募締切：2016年7月末を予定しています。

学会業務日誌

2015年4月18日(木)

▼第1回常務理事会開催(早稲田大学)

▼第1回理事会開催(早稲田大学)

- ◆ 2014年度の事業報告について、2014年度事業報告案が審議されました。
- ◆ 2015年度の方針および事業計画について、2015年度事業計画案が審議されました。
- ◆ 2015年度年次全国大会の準備状況について、大会実行委員長より報告されました。

2015年7月25日(土)

▼第2回常務理事会開催(東北大学)

- ◆ 2014年度の収支決算および監査報告について、

2014年度収支決算案が審議されました。

- ◆ 2015年度の収支予算について、2015年度収支予算案が審議されました。

2015年8月28日(金)

▼第3回常務理事会開催(近畿大学)

▼第2回理事会開催(近畿大学)

- ◆ 2015年度の収支予算について、2015年度収支予算案が審議されました。
- ◆ 2014年度の収支決算および監査報告について、2014年度収支決算案が審議されました。
- ◆ 2015年度学会賞の受賞者について審議されました。

会員数の推移

- 第1回常務理事会（2015.4.18）：新入会員2名(正会員2名)，退会14名(正会員12名・準会員2名)，会員現員数721名
- 第2回常務理事会（2015.7.25）：新入会員14名(正会員8名・準会員6名)，退会3名(正会員3名)，会員現員数は732名
- 第3回常務理事会（2015.8.28）：新入会員4名(正会員3名・準会員1名)，退会4名(正会員3名・準会員1名)，会員現員数は732名

事務局からのお知らせ

- 学会のイベント情報等を学会公式ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。
- 会員名簿の記載事項(所属，住所など)に変更等が生じた場合には，速やかに学会事務局までご連絡ください。なお，会員種類の変更には「会員種類変更申込書」の提出が必要です。捺印の上，学会事務局にご郵送ください。申込書は，学会公式ホームページで入手できます。
- フォーラムやリサーチ・セミナーの案内等，会員宛の連絡にEメールを活用したいと考えています。Eメールアドレスを未登録の方は，学会事務局までご連絡ください。また，すでに登録されている方で，案内等が届かない，あるいは，Eメールアドレスに変更があった場合には，速やかに学会事務局までご連絡ください。

日本管理会計学会広報 責任者：青木雅明

メンバー：伊藤和憲，河合久，安酸建二，木村史彦，岩田弘尚，間普崇

発行機関：日本管理会計学会

《本部事務局》 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

早稲田大学大学院会計研究科 清水孝研究室内 日本管理会計学会事務局

E-mail：jama-info@sitejama.org

<http://www.sitejama.org/>